八百	丁業高	 等専門学校	開講年度	平成30年度 (2	 2018年度)	授業科	le T	人 文社会科学	:(哲学)(0933)	
科目基础		<u> </u>	I MATE		2010中/文)	JX X 17	1111	$\mathcal{N}\mathcal{N}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}\mathcal{M}M$	(日子) (0555)	
科日 					科目区分	一般 / 選択				
授業形態						位数 学修単位: 2				
開設学科機械工等					対象学年	5				
開設期		前期	J 1-1		週時間数	2				
教科書/教	 対オオ		ルテキスト		是到的效	2				
担当教員	X 1-3	高橋 要	777 1711							
到達目標		11-311-3 🔨								
		か知識を身に付	 け、それらをもとに	白分白身の老えを	持って 他者と合	理的に議論で	~きス.	-		
ルーブ!		8 XIIII	IV. CILDEOCI			/エレバ (日表師)	2000			
<i>ル</i> ーン:	<u> </u>		理想的な到達レ	ベルの日安	標準的な到達レ	ベルの日安		未到達レベルの	N日空 N日空	
				西洋における哲学および東洋にお		VIVIDES.	1文 不到達し、7000日文			
評価項目	1		ける思想の流れ	を理解し、現代の 自分の立場を定め	西洋における哲学および東洋にお ける思想の流れを理解している		西洋における哲学および東洋にお ける思想の流れを理解していない			
評価項目	2		とができる	題に当てはめるこ	現代哲学の対象と方法を理解している			現代哲学の対象	象と方法を理解して	
評価項目	3			存在論と知識論の基礎理論を理解 レ、現在の問題に対して検討する ことができる			D基礎理論を理解 存在論と知識論の基礎理論を理解 していない			
学科の発	到達目標	頭目との関	係							
学習・教	育到達度	目標 DP1								
教育方法	去等									
【開講学期】「春学期週2時間、夏学期週2時間」 概要 哲学とは何か、どういう学問かということを知識として身に付けると同時に、哲学を実践することにより、日々の生 の中に活かしていくことを目指す。										
授業の進	め方・方	丟 シンボジ 到達度試	ウムの後には全負力	ハルボートを提出す	るよう求められる	0			を行う。全期を通じ さめられる。また、 呼価を行い、総合評価	
注意点		日々の生 に発言し	活の中で、その奥に 発表する姿勢が強く	ある「真」「善」 (求められる。尚、	「美」「聖」「財 自学自習の成果は	」など抽象的 宿題によって	りな事権 「評価す	所について自ら [≵] する。	え、それを積極的	
授業計画	画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標				
		1週	I.序論 1.哲学と	は何か 1.1.種類		東洋思想と西洋哲学の流れを理解する			する	
		2週	I.序論 1.哲学と	は何か 1.2.定義		哲学の目的・対象・方法を理解する			3	
		3週	 I.序論 1.哲学と(は何か 1.3.特徴	哲学と他の学問との			D違いから哲学独自の特徴を理解す		
前期		4週	ノンスポジウム1〜			つ				
	1stQ	5週		(シンポジウム1> 方法論 2.言語分析 2.1.人工言語 2.2自然言語 (分析)						
		6週	2.3自然言語(意味	方法論 2.言語分析 .3自然言語(意味分析) .4自然言語(文脈分析)			自然言語の意味分析の方法を理解する			
		7週	<シンポジウム2>			確実な知識(真理)について、討論を通じて理解を深める				
		8週	II.方法論 3.論理学	3.1.位置 3.2.種	類 3.3.定義			ける位置と種類		
		9週	II.方法論 3.論理学	3.4. 方法		演繹論理学の 解する	の公理的	対万法とモデル	論的方法の概略を理	
		10週	III.本論 A.理論哲学 4.存在論 4.1.位置	II.本論 A.理論哲学 ·存在論 4.1.位置 4.2.定義			存在論の哲学における位置付け、およびその目的を理解する			
		11週	<シンポジウム3>				Trolley problemへの検討を通して二重結果論を理解する			
	2ndQ	12週	III.本論 A.理論哲学 4.存在論 4.3.歴史的展開 4.4.現在 4.5.立場 III.本論 A.理論哲学			古代から現代に至る存在論の流れと現代の主要な見解 を理解する 知識論の哲学における位置づけ、およびその目的と現				
		13週	111. 本調 A. 注調 日子 5. 知識論 5.1. 位置 5.2. 定義 5.3. 歴史的展開 <シンポジウム4>			代にいたる流れを理解する 嘘つきのパラドックスへの検討を通じて、知識の限界				
		15週	到達度試験			への理解を深める				
			(答案返却とまとぬ							
 "	<u> </u>	16週 L ナ = = / の	Manara cana							
	コアカリ		学習内容と到達					1	1 -211 1=2116.	
分類	^	分野	学習内容	学習内容の到達目	崇			到達	レベル 授業週	
評価割る		- h = A	I	1	T-1-6 00 /	1.0		T	A = -	
//\ C =: :		試験 	発表	レポート	討論参加	ポートフォ	<u> リオ</u>	その他	合計	
総合評価	割合	50	20	20	10	0		0	100	
基礎的能力		50	20	20	10	0		0	100	

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0